２０１８年度　地域連携プロジェクト実施報告

峰～陽東間における学生参画による地域交流拠点づくりと評価システムの検討

代表者　コミュニティデザイン学科　石井大一朗
協力者　宇都宮市市民まちづくり部生活安心課
東峰西自治会長　室井光
AKIYAスタジオ 荻原真理子
スタディカフェぺんしる　木津英美里
コミュニティデザイン学科准教授　阪田和哉

研究背景と目的

～所有者が建物を所有したままのコミュニティ形成に資する空き家活用モデルの検討～

1960～70年代に開発された宇都宮のインナーサバーブでは、現在、子世帯の離家やパートナーとの死別等により、一軒家等の空き家や遊休スペース（以下、空き家等）が増加している。空き家は処分が必要な①危険空き家、②不動産市場を経由したり、空き家バンクで取引される空き家のほか、市場では取引されない空き家「もったいない空き家」がある。本プロジェクトでは③のもったいない空き家の活用に着目している。大学の立地する峰～陽東間においても、こうしたもったいない空き家が数多く存在する。本プロジェクトでは、こうした実状を踏まえ、もったいない空き家を活用した地域活性化に向けて、地域デザイン科学部を中心とする学生参画による地域交流拠点づくりのモデル例を実践を踏まえて検討する。また、こうした活用に対する、行政の支援や地域組織の支援の意義を示すための評価システムの検討を行う。

ー峰～陽東間における学生参画による空き家等活用対象地ー

成　果

1．学生の実践的学習の場をつくり、地域のニーズに応える

メンバー：宇都宮市市民まちづくり部生活安心課
東峰西自治会長　AKIYAスタジオ　スタディカフェぺんしる

地域の交流・集会拠点として、2018年5月にプレオープンイベントを、自治会と連携して、石井研究室・安森研究室が行った。また、空間計画や利用方法に関するニーズ調査を学生が中心となり行った。

地域交流拠点の誕生
～みんなのリビング～

3月完成予定。
空間デザイン
©安森研究室

集

峰～陽東間の地域デザインへ

学

～スタディカフェぺんしる～

高校生の学びの場づくりを既存のコミュニティカフェを活用して実施した。株式会社カルビーの協賛を得た。

住

～峰下宿スタイル～

戸建て住宅の遊休スペースの活用プロジェクト。4月以降に試行的に入居が始まる。

？

NPO法人キーデザインの拠点形成への参画。

2．空き家のコミュニティ活用における評価モデルの検討

メンバー：宇都宮市生活安心課、東峰西自治会、
コミュニティデザイン学科　石井大一朗　阪田和哉

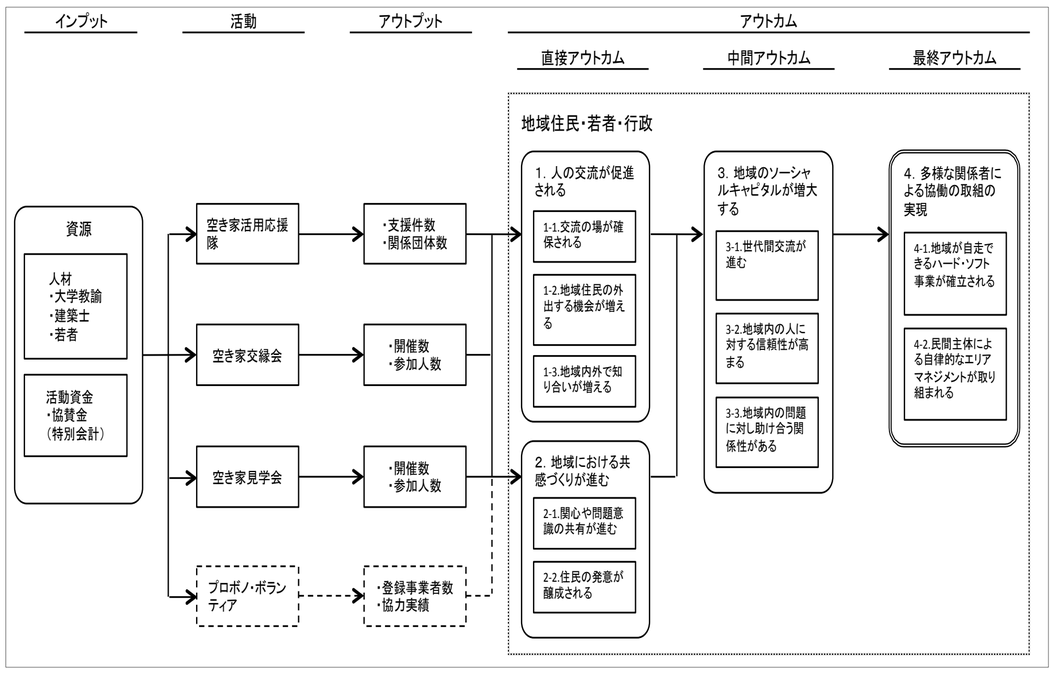
東峰町地区のみんなのリビング（地図中A）において、宇都宮市生活安心課と自治会、及び石井研究室、阪田研究室が協働して、空き家のコミュニティ活用に関するアウトカムに着目した評価モデルの検討を行った。宇都宮市が事務局を務める「宇都宮空き家会議」の評価システム検討部会としての位置付けを得て、次年度、地域住民を対象とした調査票調査等を実施していく。

事業目標：
地域住民や若者が様々なプログラムを通じて空き家や空き地の活用に関わり，多様な関係者・団体による協働の取組が実現することで，地域が活性化される。

事業の受益者：
地域住民、社会参画を志向する若者・行政

最終アウトカム：
ソーシャルキャピタルの醸成による多様な関係者による協働の取組の実現

月に１回程度行われる
共同研究会の様子



2019年1月29日研究会時点の評価モデル案